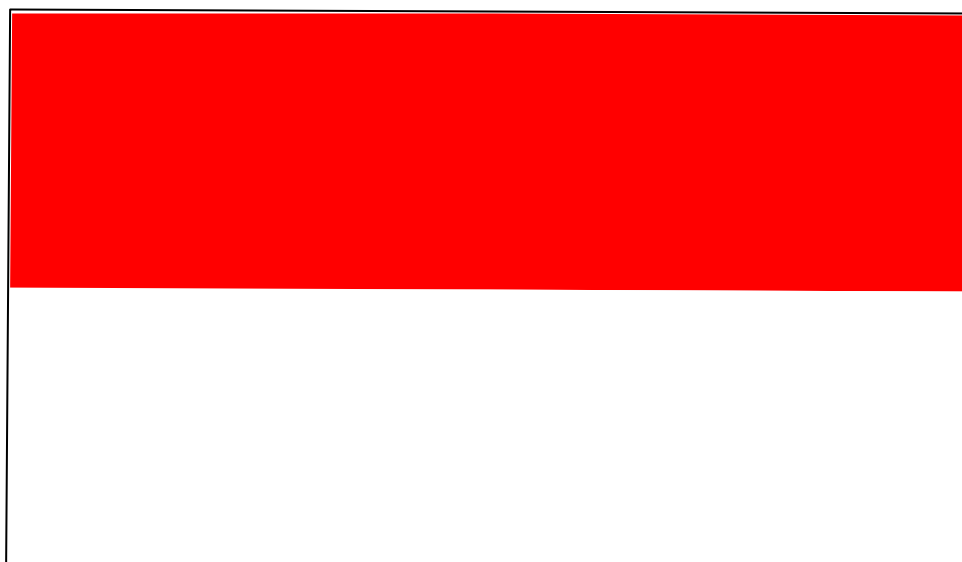


ジャカルタの太陽の下で



■ ジャカルタ日本人学校教職員（2001）



■ パナナの花



■ 朝のマチャット（交通渋滞）

登別市立登別温泉中学校
教諭 池田 健人

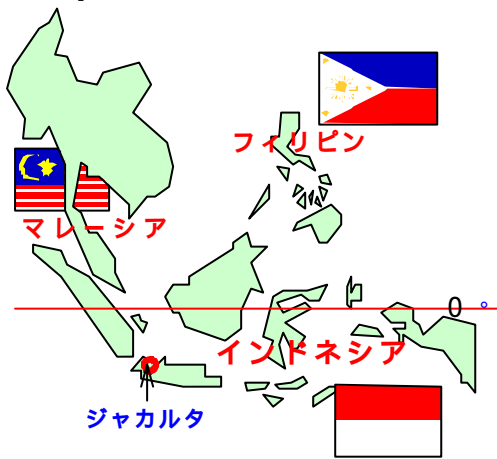
1 , 派遣在外教育施設と派遣期間



■ ジャカルタ日本人学校 (J J S)

- ・ インドネシア・ジャカルタ日本人学校
(Jakarta Japanese School = 略称 JJS)
- ・ 2000 (平成 12) 年 4 月 1 日
から
2003 (平成 15) 年 3 月 31 日

2 , インドネシアのプロフィール



(1) 正式国名

- ・ インドネシア共和国
(Republik Indonesia)
- ・ 1945 年 8 月 17 日の独立以来用いられている国家名称。インドネシアとは、字義通り訳すると、東インド諸島の意。

(2) 人 口

- ・ 約 2 億 1 2 9 4 万 (現在世界第 4 位)
- ・ 人口はジャワ島に約 6 割が集中。

(3) 首 都

- ・ ジャカルタ (南緯 6 度)
- ・ 人口は 1 0 0 0 万人を超える
- ・ 成田空港からジャカルタまで飛行機で 7 時間

(4) 日本との時差

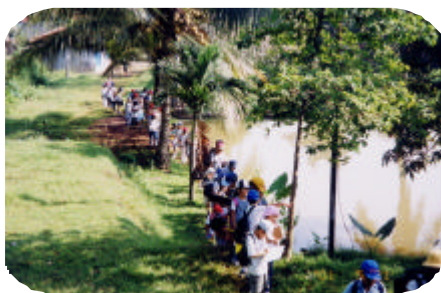
- ・ 日本と首都ジャカルタとの時差は - 2 時間
(日本の午前 9 時はジャカルタの午前 7 時)

(5) 気 候

- ・ 熱帯雨林気候 (年間平均気温 2 7)
- ・ 四季はなく、雨季 (1 0 月から 3 月) と乾季 (4 月から 9 月ころ) によって多少気温が違う程度。
- ・ 昼間太陽の下では暑さを直接体験できる。夜過ごしやすい。



■ ジャカルタ市街地



■ 小 3 ・ 学校のまわり探検



■ モナスの塔と
大モスク

(6) 宗 教

- ・ 国家公認の宗教は、イスラム教・カトリック・プロテスタント・ヒンドゥ教・仏教の5つ・イスラム教徒が全人口の約9割を占め、世界最大のイスラム国

(7) 政 治

- ・ 1998年5月、30年あまり続いたスハルト体制が崩壊し、暫定的にハビビ副大統領が就任。
- ・ 99年からワヒド大統領、01年からメガワティ大統領と、民主化を進める流れの中で状況は未だなお流動的。

3 , ジャカルタ市内の様子



■ ジャカルタ中心部

(1) プロフィール

- ・ 人口1000万人(日本人は約1万5千人)
- ・ 近代的なビルが建ち並ぶ中心部にもインドネシア庶民の住むスラム街が隣接。
- ・ ジャカルタ市内を歩いてみると、ここで生活する人たちと、我々外国人との経済的な格差を目の当たりにする



■ 日本人がたくさん住んでいるアパート

(2) 住 宅

- ・ 日本人は、主に一軒家やアパート、集合住宅で生活。
- ・ 98年の暴動以降、一軒家からセキュリティーのよさで、アパートや集合住宅で生活する人が増加。
- ・ 衛星放送が受信でき、NHKを見ることができる。編集の関係や時差の関係で日本のNHKとは多少内容が異なる。
- ・ ほとんどの家庭では自家用車の運転手や、メイドを雇っている。メイドは料理をはじめ掃除・洗濯・アイロンがけ・買い物等をしてくれる。



■ 市内の一軒家



■ 大型ショッピングモール



■ ワルン（屋台）



■ パサル（市場）



■ トヨタ・キジャンと運転手



■ ベチャ



■ バジャイ



■ 日本語の通じるSOS病院

(3) 買い物

- ・市内には、インドネシア国民がよく行くスーパーやパサル（市場）があり、日本人もよく利用している。
- ・日本人スーパーも4～5軒あり毎週高い買い物をしているのが現状である。
- ・その他、デパートやショッピングモールもあるので、日常生活はあまり不自由を感じない。
- ・日本の書籍や雑誌、日用品・食料品等は、品数は少なく割高であるが、ほとんどのものを手に入れることができる
- ・しかし、大部分の子どもたちは日本に一時帰国した際、買込んで持ち帰って来るのが現状。

(4) 交通

- ・我々日本人の交通の足はマイカーが基本。
- ・子どもたちは通常スクールバスで通学。
- ・スーパーへの買い物はもちろんのこと友だちの家に行くときやレンタルビデオ店へ行くときも車で行く。
- ・車に乗る生活や外遊びができない生活、家の中での遊びの生活のため運動不足を感じている子どもたちも少なくない。
- ・公共交通機関として列車やバス・タクシーなどのほかにバジャイ（三輪自動車タクシー）やベチャ（自転車タクシー）がある。それらが道路に溢れ毎日慢性渋滞をひき起こしている。

(5) 治安・衛生

- ・98年の暴動からは落ち着きを取りもどしたジャカルタ。しかしながら、物価の上昇などに伴う反政府デモは依然なくならない。
- ・市内の犯罪も後を絶たず、窃盗や強盗などの犯罪は日常化している。
- ・衛生環境も十分ではなく、出産や大きなけがでは一時帰国をしたり、シンガポールに緊急輸送される人も少なくない。
- ・市内には、日本人専用の病院が2～3軒あり、病気やけがの程度に関係なく、日本人はよく利用している。

4 , ジャカルタ日本人学校の様子



校舎正面



小学部グラウンド



校内の喫茶店



中学部プール



アトリウムと円形広場



スクールバスで登下校する児童生徒



昼食はお弁当



帰りの見送り

(1) プロフィール

- ・ジャカルタ日本人学校は、首都ジャカルタ郊外にある。
- ・校舎の老朽化と児童生徒数の増加に伴い、ジャカルタ市内のパサーリング校舎より、1996年4月に現在のピントロ校舎に移転し、現在に至る。
- ・敷地面積 74,456 m²
- ・3階建て校舎3棟（小学部2棟・中学部1棟）
- ・小学部・中学部別に運動場、体育館、プール、コンピュータールームがそれぞれ2つずつある。
- ・教室・体育館は、もちろん冷房完備。約800名（小学部650名・中学部150名）の児童生徒が快適な学校生活を送っている。

(2) 児童・生徒の一日

- ・児童生徒のほとんどは約45台あるスクールバスで通学。ジャカルタは熱帯にあり交通渋滞もひどいことから児童生徒を早めに登校させている。
- ・授業開始は7時40分。
- ・給食がないので弁当持参
- ・水道水が飲めない所以水筒持参
- ・また朝早く家を出るためお腹の空いた子のために、20分間の中間休みには果物やおにぎり、売店で買ったパンなどの中間食を食べても良い。
- ・授業終了は2時30分



■ 全国から様々な子ども達が集う

太陽さんさん時間わり・2

時間	月	火	水	木	金
朝の活動 7:40-7:55	学かつ	美術	どうじ	スポーツ	学かつ
1 8:00-8:45	国語	算数	算数	国語	体育
2 8:50-9:40	音楽	国語	プール	算数	算数
3 10:00-10:45	どう合	音楽	図工	社会	英会話
4 11:00-11:45	社会かどう合	理科+英会話	図工	理科	国語
5 12:00-12:15	算数	体育	国語	書写	理科
6 12:20-12:55	学かつ	国語	パス詞学	通とく	社会

動物の飼育は、緑の日をうちにしませう!

■ プールや英会話のある小3の時間割



■ 最新のコンピュータ導入

(3) 学習内容

- ・ 学習内容は日本の小・中学校と同じ教科の他、『英会話』の時間がある。
- ・ 『英会話』は小学部の1年生から学習し、小学部4年生以上は週2時間学習。
- ・ 『総合の時間』にはインドネシアのことを理解するために自分たちで様々なことを調べたり、現地の学校と交流活動をしたりしている。
- ・ 加えて熱帯にある学校のため『水泳の時間』は年間を通じて行うことができ、泳ぎの得意な児童生徒がたくさんいる。(児童生徒は皆小麦色の肌)
- ・ 学校には新型のコンピュータが60台あってLANシステムで繋がっており、どのコンピュータからも同時にインターネットに接続することができる。
- ・ 小学部1年生からコンピュータに触れる機会を設けているため、扱いに慣れている子どもたちもたくさんいる。

(4) 学校行事

- ・ 体育祭、JJSフェスティバル(文化祭)、遠足、宿泊学習、修学旅行など国内同様たくさんの学校行事がある。
- ・ すべての行事は安全第一で行われ、修学旅行は警備員も同行。
- ・ 中でも小学部と中学部が合同で行う体育祭は4色に分かれた応援合戦もあり児童・生徒はもちろんのこと来賓や保護者の方々も熱狂している。
- ・ 中学生が参加する日本インドネシア友好親善キャンプは20年以上の伝統を持つ、インドネシアの現地校の生徒と寝食を共にする楽しい行事。
- ・ その他部活動の親善試合、ヘリテージ(インドネシア理解学習)など楽しい活動がたくさんある。



■ 体育祭の組体操

■ JJSフェスティバル



■ サッカーの交流試合



■ ガムラン部

5 , おわりに



■ 朝の縄跳び集会



■ 一年中できる水泳教室



■ ジャカルタ日本人会のイベント



■ 思い出づくりの家族写真

今、3年間の派遣を終え、日本で生活している自分。ジャカルタでのアルバムを見ながら、インドネシアで様々なことをしている自分の姿が、なつかしくそして不思議に思われてならない。本当にあっという間の、竜宮城のような3年間であった。

派遣期間の3年間では、インドネシアの気候や文化、慣れない言葉や生活習慣もなんとか克服し本当に充実した時を過ごすことができたと感じている。やはり、第1に時間を割いたのは、教材研究であった。現地の教材を生かした授業展開を考えて、悪戦苦闘の日々であったように思う。とりわけ総合的な学習の時間では、現地校との交流やインドネシア語学習はもとより、インドネシアの民族の学習やバティック（インドネシアのろうけつ染め）の体験学習を行うことができた。また、平成15年度から使用する社会科副読本の作成に向けた取材や執筆作業・編集会議等についても精力的に行うことができた。2冊の社会科の教科書を作り上げることができた。さらには、中学校経験しかなかった私が、3年間小学校の教育に携わることができたのは大変良い経験となった。派遣3年目には、学年主任も経験させて頂き、「広い視野から子ども達の成長を考えることの大切さ」を実感することができた。

北海道とは、気候も生活環境も全く異なるジャカルタでの生活は苦勞やとまどい、不都合等も多かったが、子どもたちの瞳の輝きに後押しされ、充実した3年間を送ることができた。北海道に帰ってきたこれからも児童・生徒や保護者の期待に応えられるように、「子ども一人一人が生き生きとする授業」を目指し、日々教材研究に全力を尽くしていく。

このような素晴らしい経験を支えてくださった様々な方々に感謝しています。ありがとうございました。